

バンドン工科大学での留学生活

バンドン工科大学はインドネシア・ジャワ島西部にあるバンドンという高原都市の中心に位置します。赤道直下であり常夏の国ですが、バンドンは日本の夏よりも涼しく、平均気温は25度前後です。夜は冷え込むため、長袖のパーカーやジャケットを着用していました。



イスラム教徒が約90%、次いでキリスト教、ヒンドゥー教、仏教徒が互いに平和を祈り、尊重し合い、生活しています。大学内、授業内でも属する宗教に関わらず対等に意見を発信し、グループ課題をこなしたりサークル活動や行事を楽しんでいます。「日本人だから」という差別に出会うこともなく、どこへ行っても歓迎していただきました。

ITBのキャンパスはととても広く、KUT香美キャンパスのように自然豊かでリラックスして過ごすことができます。南北にメインストリートがあり、それを北上するほどに伝統建築が近代建築に移る様は一つの博物館として散歩を楽しむこともできます。多くのカフェテリアやATM・郵便局も併設されており、近所にもレストラン・カフェ・両替所・スーパーや衣料品を扱う店があるので生活に困ることはありません。



School of Business and Management では KUT のマネジメント学部にはない分野をより専門的に学ぶことができます。卒業後の学生の進路も研究内容に沿っており、起業する学生やヨーロッパの院へ進学する学生も少なくありません。とても刺激を受ける学習環境でした。それと同時に、ハングリー精神あふれる素晴らしい友人に出会えました。

日本の大学と大きく違うところは、授業形式です。1時間～3時間の授業時間中、学生がディスカッションを行う時間は先生が教鞭をとる時間の半分かそれ以上あります。眠くなることや疲れることもなく、あっという間に時間が過ぎていきます。課題の種類も様々で、学習内容を自身の生活の中で応用したことについて記述したり、グループで事例を作り上げ、動画を撮影し、YouTube に投稿＝提出完了... などです。どれも半端な気持ちで取り組めず、友人や先生の助けを借りながら楽しくもハードで充実した生活を過ごしていました。



インドネシアで暮らし、多文化・他宗教の環境で学ぶ経験は、「その人の背景を尊重し、価値観の違いを自然に受け入れ楽しむことができる私」に成長させてくれました。これは、研究活動や学習内容の枠を超え、社会に出てたくさんの人と関わる場面で大きな力になります。ITB SBM への留学は、おそらく他の提携留学先では経験することのできない、深く濃い時間の中でマネジメント学習を多方面から追求できる環境です。